

令和2年 7月号

家庭教育学級

のびっこ

恵那市生涯学習課

社会教育指導員 堀



今、自分にできることをみつけて“おうちでの過ごし方”

まだまだ新型コロナウイルスの影響を気にしながら、生活しなければならない日が続きます。子どもが小さいとパパやママにとっては不安な毎日です。「手洗いが上手にできない。どうしたらいい？」など不安や疑問の声が聞こえてきそうだったので、和らげる方法はないかと調べてみました。（以下の文は「NHK すくすく子育て」情報 ー2020. 5. 9放送ー から載せます。）

㊦まだ手洗いが難しい子どもの感染対策、どうしたらいいですか？

◎手洗いは、楽しいと思えるような水遊びから始めます。

しっかり洗えなくても「うまくできたね」とほめましょう。その後、濡れたタオルで拭く程度でも、感染のリスクを低くすることができます。

◎親がしっかり手洗いすることが大事です。

子どもは親をよく見ています。親が楽しそうに手洗いをしている姿を見ると、子どもも「まねしてやってみたいな」という感覚を持ち、手洗いの習慣につながります。

◎親子で手洗いをしましょう。

手洗いは20～30秒ほどかけるとよいでしょう。「きらきら星」の曲と同じくらいの長さなので、歌いながら洗うのもいい方法です。ウイルスを落としやすくするために、石けんをよく泡立てることが大切です。洗った後はしっかり乾かしましょう。

㊦子どもがマスクを嫌がる時、どうしたらいいですか？

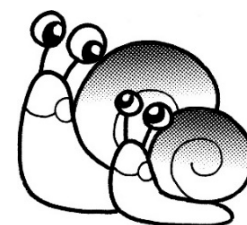
◎マスクを嫌がる子に無理につけさせようとする、マスクを取ろうとして何度も顔を触ったりつけなおすときに口や鼻の周りを触ったりするので、逆に感染のリスクが高まることも考えられます。また、2歳未満の子どもにマスクをつけるのは、窒息のリスクもあり推奨されていません。最近では熱中症にも気をつけなければならないので、マスク着用のリスクがでてきます。

“ピッチャー型” “キャッチャー型” どちらの子育て？

夕飯の支度をしなければならない時刻になると、ママはそわそわします。「そういえば洗濯物の取り入れもまだだった」「さっき、掃除機をかけたばかりなのに、もうおもちゃが散乱している。お願いだから、ママの苦勞も少しは分かってよ。」と一緒に遊んでほしいとねだる子に『イライラ』感をぶつけることはありませんか。この姿は自分の考えや気持ちを子どもに押し付ける“ピッチャー型”の子育てです。一方、家事や炊事など大変なことがたくさん待っているけれど「10分だけでも絵本を読んであげよう」と子どもの気持ちをうまくキャッチして一緒に遊ぶと、子どもは満足してご飯ができるまで穏やかな気持ちで待つことができるかもしれません。この時のママは“キャッチャー型”子育てをしているのです。

“キャッチャー型”の方が子どもにとって望ましいのではないのでしょうか。自分が発見したことを一緒に驚いてくれる、感動を一緒に共感し喜んでくれる母親（大人）が周りになると、温かい心を育むことができます。

忙しいと、ついつい大人は子どもの気持ちをキャッチするよりも自分がしてほしいことや守らせたいことだけ言い、子どもからの発信に共感したり、子どもの姿に感動したりすることを忘れてしまうのかもしれないね。



佐藤一斎先生の『言志四録』の教えを子育てに生かす

およ こと しょき やす しゅうけつ かた
凡そ事、初起は易く、収結は難し。

いちぎ いちげい おい またしか
一技一芸に於ても亦然い。

(言志晩録255条)

何事でも、はじめるのは意外と簡単ですが、自分が納得できるまでやり続けるのは難しいものです。一つの技術やけいこ事でも、習いはじめたのはいいけれど「ここまでできるようになった」と自分で満足できるまで続けることは、なかなかできません。

何事も途中で投げ出さずに、自分がこれでいいと思えるところまでやり抜きましょう。その道の一流になれなくても、自分に自信がつき、つよい人生が送れます。

「いちどはじめたことは、自分が納得できるまでやり抜こう。途中で投げ出さない」の気持ちは、子育てにとっても大切なことかもしれませんね。しんどいと感じることも時にはあるけれど、自分の心に言い聞かせながら、子育てにまい進！！



エー十ちゃん

『枯れ木に花咲くに驚くより、……』って何のこと？

『枯れ木に花咲くに驚くより、生木に花咲くに驚け』は江戸時代の哲学者、三浦梅園が残した言葉です。昔話の『花咲じいさん』に出てくる「枯れ木に花を咲かせましょう」に驚いた思い出がありますが生木に花が咲くのは当然のことと考えてしまいます。三浦梅園の言葉は「枯れ木に花が咲いたら誰もが驚くが、生きている木に花が咲くことこそ、驚くべきだ」の意味合いがあるそうです。毎日をなんとなく過ごしていると、生きた木に花が咲くことは当たり前のことと考えがちですが、その当たり前前に思っていたことが当たり前ではないということです。

三浦梅園の言葉は子どもの成長を言い当てているように思います。大人が「そんなことは当然、なぜできないの」の当たり前感覚で子どもを見てしまうこともあります。子どもは日々探求の世界で経験を積んで成長しています。今までできなかったことができるようになった我が子に驚くことがありますか。子育ての忙しさから忘れがちになりますが、“赤ちゃんの目線” “赤ちゃんの心持ち”を自分の中に持っておくことも大切ですね。